

## ジェネリック医薬品とは何者か

治験コーディネーター見習い中の薬局薬剤師が「薬担当の**小喃**」として、  
医薬品の開発や薬の使い方を医療関係者の視点から伝えていきます。

国が普及させようと推奨するジェネリック医薬品。厚生労働省による平成23年9月の集計では、日本で調剤された医薬品のうち、**ジェネリック医薬品の割合は22.8%**でした。これでは、まだまだ普及しているとはいえません。テレビでは、企業によるコマースヤルも流れています。医薬品の中で、ジェネリック医薬品とはどのような存在なのでしょう。

### 先発品に対して後発品がある

新しい医薬品は、長い期間と多額の費用をかけて開発されています。医薬品の価格は国が定めています。開発にかかる期間と費用を考慮すると、**医薬品の価格も高くなりがちです。新薬の特許は開発した企業が取得しているため、その他の企業は同じ成分を含む医薬品を発売することはできません。**

医薬品に関わる特許も一定の時間が経過すると切れず。切れた後であれば、他の企業から同じ成分を含んだ医薬品を発売することが可能となります。開発を行った企業から最初に発売される**医薬品を先発医薬品と呼び、それに対して特許が切れた後に他の企業より発売される医薬品を後発医薬品(ジェネリック医薬品)と呼びます。**自社で大規模な臨床試験などが必要としないため、発売の承認までにかかる期間と費用が少なくなります。そのことを考慮すると**価格が低く設定されます。**そのため、ジェネリック医薬品は先発医薬品に比べると安価である場合が多いのです。ジェネリック医薬品を取り扱う企業は新薬の開発をまったく行っていないことが多く、また、先発医薬品と後発医薬品では安全性情報などの情報の管理や錠剤化の技術等に差があるとされています。

### 推奨するのは治療のためだけではない

厚生労働省は**効果が同じと判断できるような基準を定めた上でジェネリック医薬品を承認している**ので、先発医薬品でもジェネリック医薬品でも、どちらでも同じ治療効果が期待できるとしています。では、効果が同じであってもあえてジェネリック医薬品を推奨する理由は何でしょうか。

国や健康保険組合も同様ですが、このジェネリック医薬品を**推奨する大きな理由は安い価格にあります。**患者さんが薬局の窓口で支払っている金額は、全額ではなく一部負担金のみです。一部負担金の割合は患者さんの年齢や収入によって変わってきますが、全額のうちの1割〜3割を支払っています。残りの9割〜7割については国や健康保険組合が、税金や健康保険組合に支払った保険料を使って、薬局に支払っています。治療に必要なとされる医薬品が処方されることに対して国や健康保険組合は口を挟むことはありませんが、効果が同じであれば安価な医薬品のほうが支払う金額も少なくなるため、**費用削減を目的とした国策としてジェネリック医薬品を使用した治療を推奨しているのが現状です。**

### 開発・承認に必要なとされる期間と費用の違い

#### 先発医薬品



期間：  
約9～17年  
費用：  
約300億円以上

#### ジェネリック医薬品



期間：  
約3～5年  
費用：  
約1億円

治療に必要な医薬品を判断するのは医師であるのは当然です。その中で価格等に関して患者さんの希望があるのであれば、その**希望に添えるように用意された選択肢がジェネリック医薬品である**と言えます。患者さんそれぞれの生活にあった医薬品を選べるようになり始めています。

なかよし薬局では、地域貢献型の医療を目指して一緒に仕事をしてくれる薬剤師を募集しています！  
詳しくは下記連絡先まで！薬剤師を対象とした復職支援も行っています！

株式会社イノベーションオブメディカルサービス 厚木支社 (採用担当)

電話 : 046-220-1171

電子メール : recruit@ims-inc.co.jp

Writer:Kuniyoshi Matuoka Directed by:Makiko Saito

